

令和6年度



川崎市立東高津小学校

教育活動報告

令和7年3月4日(火)

・教育関係法令
・学習指導要領等
・かわさき教育プラン

学校教育目標
考えよう やってみよう
みんなの本気が明日への一歩

- ・自分も相手も大切にする子
- ・夢や希望をもって一生懸命に取り組む子
- ・自ら学び、自ら考え、互いに高め合う子
- ・自分らしく健康な子
- ・地域とつながり貢献する子

今年度の重点目標

A 多様な価値観を認め合い自分も相手も大切にしよう
【人権】

B よりよい人間関係、社会参画、自己実現を目指そう
【児童会】

C 主体的、対話的で深い学びを実現しよう【研究】

D 誰もが自分らしく安心して心身を育む環境をつくらう【支援】

E 安全に地域と共に歩む学校づくりをしよう【情報】

重点にかかると具体的な取組

- ① 子ども一人一人の自己肯定感や有用感を高め、自信をもって生きていく姿勢や、互いの人権を尊重する心豊かな子どもを育てる。
- ② 自分のめざす「ひがたかっ子」になるための目標設定や振り返り等を行い、「なりたい自分」を大切に「キャリア在り方生き方教育」の推進を図る。
- ③ 地域体験や異学年交流を通じて、思いやりの心や地域への愛着心を培い、多様性を尊重する心情と態度を育てる。
- ④ 共生*共育プログラムを推進し、互いに認め合い、助け合い、譲り合う心情と態度を育てる。

- ① よりよい生活を送るために、目標に向かって努力する子どもを育てる。
- ② 「自分が」や「自分たちが」と本気になれる対象を見付け、子どもたちが主体的に考えて行動に移せるように、一人一人の意見を聞いたり、伝えたりする場を設ける。
- ③ 挨拶やきまり、社会のマナー等の大切さを知り、進んで守ろうとする子どもを育てる。
- ④ 学校生活をより豊かなものにするために、学校や学年、学級といった集団全体を見て、自分ができることをしようとする子どもを育てる。
(実行委員や係活動など)
- ⑤ 子どもの意見が反映されるように委員会活動やクラブ活動での話し合いを充実させ、連携し合ってより良い学校をつくる場の設定をする。
- ⑥ 子どもの心身を育む食育の推進、病気や怪我の予防等に関する健康教育を推進する。

- ① 学校教育目標の実現に向けて、校内研究を通して協力して教材研究を行い、授業を公開することで互いに学び合い、授業力の向上を目指す。
- ② 研究を通して育てたい力を明確にし、育成を目指す。
- ③ 学年ごとに研究の視点となる「めざす子どもの姿」を明確にして取り組む。
- ④ 校内研究「国語科」を通して、「聴く」「話す」力を育てていく。
☆国語科研究推進校

- ① 子どもの声に耳を傾け、面談の時間を確保し、いじめ・不登校の早期未然防止に努め、チーム体制での対応を行う。
- ② 対人関係等で困り感があったり個別に支援が必要だったりする子どもたちに対して個に応じた支援を充実させる。
- ③ 学年・学校全体で子どもたちにかかわることを意識し、全教職員による児童理解の上に立った児童指導・支援の体制を充実させる。
- ④ 保護者や地域の方が話しやすいように心がけ、全教職員で連携して、教育相談体制の充実を図る。
- ⑤ スクールカウンセラーと協力して、児童理解や教育相談を充実させていく。

- ① 授業参観や学校・学年行事等を公開し、学校ホームページ、学校・学年だより、懇談会等の充実に努め、積極的に情報の発信を行う。
- ② 情報機器等の危険を意識して利用する情報モラル教育を家庭・地域と連携して推進する。
- ③ GIGA 端末の管理やルールの整備を適切に行い、子どもたちが情報機器を活用しやすい環境をつくる。
- ④ GIGA 端末の活用の仕方について、教員間で情報共有し、進んで情報機器を使用できるようにする。
- ⑤ 安全な学校生活を送れるように保護者・地域と連携し危機管理意識を高めると共に、子ども自ら命を守る防災・防犯教育を推進する。

多様な価値観を認め合い自分も相手も大切にしよう

- 一人一人の子どもの自己肯定感、有用感を高め、自信をもって生きていく姿勢や互いの人権を尊重する心豊かな子どもを育てるために、日常の授業や行事などの際に一人一人が活躍の場をもてるようにしている。子どもの権利条例について学ぶなど、人権教育を各学年で取り組んでいる。職員の人権教育研修も実施し、人権意識を高めるようにしている。
- 「なりたい自分」を大切にしたり、相手を思いやったりする態度を大切にするために、学校教育目標をもとに、学年・学級、自分の目標を立てた。行事や期間ごとに振り返りをしながら、年間を通してめあてをもって活動に取り組んできた。各教科でも「キャリア在り方生き方教育」を意識して授業を実践してきた。キャリアノートを活用できるところを検討し、指導計画をつくり、各学年で取り組んだ。キャリア・パスポートには自分の成長を知ることができるようにどの記録を残すのかを検討しながら、確実に次の学年へ引き継げるようにした。
- かわさき共生*共育プログラムを計画的に行い、仲間づくり、友だちづくり、自分づくりの3種類のエクササイズについて体験してきた。授業を通して互いに認め合い、助け合い、譲り合う気持ちや態度を育むことができた。「キャリア在り方生き方教育」とともに授業の様子を学校だよりに載せ紹介した。
- ペア学年を中心とした異学年交流活動では、名刺交換や作品鑑賞、運動会の応援などの交流に取り組み、互いを知ることができた。校外学習やゲストティーチャーの学習を通して、地域の良さを発見し、多様性を尊重しようとする気持ちを育むことができた。

よりよい人間関係、社会参画、自己実現を目指そう

- よりよい生活を送るために目標を立て、その目標に向かって努力する児童を育てるために、学校教育目標をもとにして学年目標と学級目標を決め、常に意識しながら生活することができた。また、学校全体のよりよい生活を考えるために、運営委員会や代表委員会の活動を大切にした。「やさしさ戦隊ひがたかレンジャー」では、学校生活の中で児童自身が大切にしたいと思うことを、代表委員会の活動を通して考え、全校児童一丸となって取り組むことができた。
- 1・6年、2・5年、3・4年がペア学年となり、それぞれの学年が企画し、交流する場を増やしている。代表委員会におけるいじめ防止活動にもペア同士で取り組み、交流を深めた。ペア学年の児童と一緒に校内を回る中で、上級生が下級生に優しく接する場面が多くあり、思いやる心情を養うことができた。
- 年間生活目標である挨拶に関して毎月振り返りを行うことで、自分から進んであいさつを行う意識を高めることができた。外部講師から自分たちにはできないことを学ぶことで、人生の先輩として尊敬の念をもち、地域や国の伝統、技能を身に着けることができた。
- 当番活動と係活動との違いを年度当初に共通理解し、係活動は学級目標を達成するための活動であることを確認した。学級目標を意識した子どもたちの自主的な係活動で学級作りを行った。児童の発意発想を生かした係活動を展開したことで、学級をよりよくしようとする思いを行動に表すことができた。
- 委員会では、昨年度パソコン委員会だったところを広報委員会と名称を変えて活動をスタートした。各委員会が役割を意識し、創意工夫しながら学校をよりよくしていくための取り組みを考え、集会や行事に関連した活動を行うことができた。クラブ活動では、異学年とのかかわりを大切にしながら共通の趣味、関心を追求する活動ができた。
- 子どもを心身を育む食育を推進していくために栄養教諭が授業を行った。その学習を通して、児童一人一人が箸の持ち方や栄養バランスの良い食事などについて考えながら学校生活を送ろうとする様子が見られた。

研究テーマ

主体的、対話的で深い学びを実現しよう

「考えよう やってみよう みんなの本気が明日への一歩」を体現する子どもたちを目指して
～自分事として考え つなげて 深めて 学び合う～

- 1月22日(水)に川崎市教育委員会国語科研究推進校として、2年間の国語科指導研究を生かし研究報告会を行った。特別支援級を含め、全学年7クラスの授業提案を行い、研究の成果を発表することができた。
- 研究授業については、研究報告会も含めて年4回全学年が授業提案を行った。自分事として考え、つなげて深めて学び合うことができる児童の育成を目指して研究を深めていくことができた。
- 話す・聴く力を育む手立てとして「ひがたかっこ聴き方話し方」を導入し、全ての教育活動の中で伝え合う力のレベルアップを意識して取り組むことができた。朝の短時間学習の時間「ひがたかタイム」では、語彙を増やすための取り組み「ことばの時間」を実施し、言語に慣れ親しみ、児童の表現力向上につなげることができた。
- これまでの研究によってどの学年も伝え合う力を高めることができた。校内研究を通して、身についた聴く力や話す力を令和7年度からの教育活動にいかしていきたい。

安心・安全に心身をはぐくむ環境をつくり支援しよう

- 児童一人一人の実態を把握し、それぞれの特性に合わせた支援や指導ができるよう、支援教育コーディネーターをはじめ、各担任・級外の教職員で情報共有を行いながら、支援にあたった。特に、毎月1回の部会・毎週の打ち合わせ等で定期的な情報共有を意識して行った。
- 月に1～2回、学校巡回カウンセラーが派遣され、保護者や児童の教育相談、教職員へ児童理解の助言などを行った。
- 支援を必要とする子どもについて複数の教員でその支援ニーズを具体的に把握し、それぞれに応じた指導や支援を行ったり、外部機関と連携したりした。
- 学校生活アンケートをもとに、担任が面談を行うことで、子ども一人一人の考えを知ることができた。それらを学年で共有し、各学年で頻繁に連携を取りながら対応を行った。今後も学年を中心に、複数の職員で対応にあたるようにしたい。
- 体力向上を目指す取り組みが行われた。運動委員会主催のスポーツ集会が行われ、多くの児童が積極的に参加していた。朝のキラキラタイムの時間を活用して各学年で体育的活動に取り組んだ。また、放課後に設定される校庭開放は、約束を守りながら多くの子どもが遊んでいる。

安全に地域と共に歩む学校づくりをしよう

- 防災・防犯教育では、予告なしの避難訓練を行うなど、様々なシチュエーションで訓練を実施できた。子どもたちは自分で考え、判断し、行動することができた。長期休み前には、各自の児童用非常用持ち出し袋を点検し、袋に入れるものや緊急時の行動について家族と話し合う機会を設けた。子どもと一緒に考えることで家庭の防災意識も高まった。
- 学校ホームページは、適時更新することができた。学校全体の教育活動や学校のルール、学校評価の結果などを掲載した。学年ページでは各学年の取り組みを知らせた。その中には防災・防犯にかかわる子どもの活動や、地域の方に講師として来ていただき学習している様子などもあった。学校の教育活動を広く広報する手段として、とても有効であった。
- 情報モラル教育の取り組みとしては、各学年の必要に応じて GIGA 端末を家庭に持ち帰ってクラスや委員会の活動をしたり、家庭での学習に役立てたり、家庭と学校をオンラインで繋ぐ手段として活用した。クラスごとの SNS のアプリを使って、子どもとのコミュニケーションや宿題のやり取りなどを行った。来年度は、携帯キャリアや関係機関に携帯電話教室を依頼して、授業参観や学校公開日に行い子どもと大人のモバイルデバイスへの意識啓発を計画している。
- 健康に関しては、教師の健康安全指導のみならず、委員会の活動を通して健康や衛生や安全に関する知識を深めることができた。保健委員会では、トイレトペーパーの補充等の常時活動に加え、放送の保健集会で熱中症予防の注意喚起をしたり、「教室や廊下を走らない」を呼びかけるポスターの制作や注意喚起の教室訪問をしたりして安全キャンペーンを通じて校内の安全・健康を呼びかけた。

～各学年から～

【個別学習室】

『元気な心』

成功や失敗にこだわらず、挑戦する

- ・1人1人が、自分のできそうなことに挑戦して最後までがんばることを大切にしてきた。
- ・具体的な目標をもち、課題を解決していくことで達成感を味わい、自信をもって取り組めるようになってきた。

思いやりをもって、友達とのかかわりを楽しむ

- ・異学年交流を常に行うことで、相手のことを考えたり助け合ったりする経験を積むことができた。

最後まで話を聴き、思ったことを話すことができる

- ・国語の学習では、ステップアップシートを活用し、目標設定やふりかえりを継続して行うことで1人1人が自分の力を伸ばすことができた。
- ・国語の学習だけでなく、生活の中でも意識することができるようになってきた。

【1年】 学年テーマ「おひさま」

- ① おもいやり ② ひとりひとり
③ さいごまで ④ まなびあい

- ☆自分のことだけでなく、友達と力を合わせて、助け合う姿が見られるようになった。
- ☆友達や先生の話の聴いたり、反応したりなど、「聴くこと」が意識できるようになった。
- ☆伝える相手のことを意識して、自分の意見を積極的に表現できるようになった。
- ☆学習面でも、生活面でもすぐにあきらめないで粘り強く取り組めるようになった。この1年間で、できることがたくさん増えた。
- ☆それぞれの個性を大切にして、「自分も友達も大切にできる1年生」をめざして、子どもたちを励ましてきた。一人一人が自分の良さや好きなものを大事にし、少しずつ自分に自信がもてるようになってきた。
- ☆「読む」「書く」「数える」「計算する」等、小学校での学習の大切な基礎基本を身につけられるよう支援を行い、力を着けてきた。

【2年】

やさしく 助け合い 協力して がんばり
楽しく過ごす 2年生 ⇒ **にこにこ 2年生**

自分・2年生の友達・1年生・学校のみんな・先生方・地域の方・家族が「にこにこ」で過ごせるように！

☆特に2年生の友達や1年生に対しては優しい気持ちで接するように声を掛けてきた。一人一人のよさを認め合うことで、自尊心の向上にもつなげていくことができた。

☆失敗することを怖れず、周りを頼る雰囲気や学年で作ってきた。困っている友達に手を差し伸べ、協力することにつながった。

☆めあてを意識した活動を心がけてきた。教職員が励ましの言葉を掛けたことで、意欲を高め、自信を付けていくことができた。

☆生活科の学習では、地域の方にお世話になった。地域の中で、以前よりもさらに楽しく気持ちよく安全に生活していこうという気持ちを高められた。

【3年】

『やった できた がんばった』

- ・自分も友達もまわりの人も大切にしよう
- ・自分の目標をもって、最後までがんばろう
- ・進んで取り組み、お互いの考えを伝え合おう
- ・自分のよさを知り、心も体も健康でいよう
- ・自分の住んでいる地域を知って、好きになろう
- ☆様々な活動において、お互いの考えやがんばりを認め合う場面を設けたことで、自己肯定感の高まりや次の活動への意欲につなげることができた。
- ☆学習の積み重ねを大切にし、伝える場や伝える機会を設定することで、「話す力」「聴く力」が少しずつ成長することができた。授業の中で、友達と考えを伝え合う経験を積むことができた。
- ☆総合的な学習の時間では、地域の人のおいしさを知り、地域に受け継がれるものについて考えることができた。

【4年】

㊦ さしくする

㊧ 知らないことは教え合う

あおぞ

㊨ のように広い心で♪

㊩ からだも心も成長しよう



- よく聞きよく話しめあてに向かって行動しよう
- 進んで運動や学習に取り組み、何事も好きになろう
- 自分の住んでいる地域とかかわり、見方を広げよう
- 友達のことを考え、仲良く協力し合おう

☆年間を通して、一人一役の実行委員を設け、めあてや活動内容、活動時期を自分たちで考え、見通しをもって活躍していける場を設定した。みんなのために責任をもって一生懸命取り組む姿が見られた。

☆学年行事や学年集会を通して、みんなで協力し、責任をもってやり遂げる自信や充実感がもてるよう取り組んできた。運動会や学芸大会を通して、表現する楽しさや学年全体で一つのものを作り上げる達成感を味わうことができた。

☆校外学習に出かける時やゲストティーチャーに来ていただく時は、時と場を考えて行動するよう指導してきた。社会科見学や総合的な学習の時間などでの地域の人とかかわりを通して考えを広げていくことができた。

【5年】 チャレンジ

～one stage up～

初めてのことや苦手なことにも積極的にチャレンジし、失敗から学べることも大切にして

☆高学年になり、日々の生活の中で初めてのことや苦手なことにチャレンジする子どもが多くなってきた。

☆授業の中で、失敗を恐れず、多くの友達に自分の考えや思いを伝えることができる子どもが多くなった。また、友達の発言を肯定的・受動的に聴くことができる学年風土を育むことができた。

☆初めての委員会活動では、6年生に多くのことを教わりながら、徐々に活動内容を理解し、責任感をもって活動に取り組む姿が見られるようになってきた。

☆6月の自然教室では、友達と協力しながら、初めて行う自然体験活動などを楽しく行うことができた。

【6年】 学年テーマ「縁」

学習や活動を通して、学校・友達・地域など様々な縁を大切にしていく。

【一年間大切にしてきたこと】

- ①あいさつ ②思いやり ③言葉遣い・礼儀
- ④時間厳守 ⑤自主性

①あいさつが飛び交う学校になるよう、まずは自分たちから先生や児童にあいさつをすることで下級生の見本になるよう心がけていた。

②思いを伝え合い、相手の価値観に共感するなどのコミュニケーションを大切にするように声をかけてきた。情報モラルについては都度指導することで、モラルをもつことの大切さを知ることができた。

③時と場に応じて適切な言葉遣いを使えるよう、考えて話すようになった。丁寧な言葉・話し方をするよう日常から指導してきたことで、相手の立場に立って言葉を選ぶようになってきた。

④時間を守ることで、効率よく活動することのよさを修学旅行で実感できた場面が見られた。日常でも5分前行動を心がけていた。

⑤委員会やクラブ活動など最高学年として今何をするべきかを考え、自ら行動出来るようになった児童が増えた。

